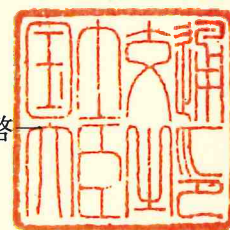


# 認定書

国住指第 473 号  
令和元年 7 月 11 日

株式会社 アイ・テック  
代表取締役社長 大畑 大輔 様

国土交通大臣 石井 啓



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
FP120FL-0192
2. 認定をした構造方法等の名称  
軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

## 1. 構造名

軽量コンクリート・デッキプレート造床 (合成スラブ)

## 2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	仕様
床 厚	160 以上
荷重と支持間隔の 関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支持間隔 2500 以下の場合 自重を含めた全荷重 23.83 kN/m<sup>2</sup> 以下</li> <li>・支持間隔 2500～3200 の場合 自重を含めた全荷重(w)×支持間隔(L)の2乗=148.9 kN 以下</li> </ul>
支 持	単純支持、連続支持

## 3. 材料構成

## 1)主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕様
① デッキプレート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3352(デッキプレート)</li> <li>・山 高 さ 75<sub>±1.5</sub></li> <li>・形状寸法 別添-7 参照</li> <li>・厚 さ 1.2<sub>-0.06, +0.1</sub>, 1.6<sub>-0.08, +0.1</sub></li> <li>・働 き 幅 300<sub>-2, +8</sub>, 600<sub>-2, +8</sub></li> <li>・種 類 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)SDP1T (2)SDP1TG (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3</li> </ul>
② コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種 類 軽量コンクリート</li> <li>・呼 び 強 度 21～40</li> <li>・厚 さ デッキプレート山上から 85 以上</li> </ul>
③ 耐火補強筋	<p>鉄筋(異形鉄筋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117</li> <li>・種 類 SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490, SDR295, SDR345</li> <li>・断 面 寸 法 D13 以上</li> <li>・間 隔 300(デッキプレート溝部中央)</li> <li>・かぶり厚さ デッキプレート溝部底面から 40</li> </ul>

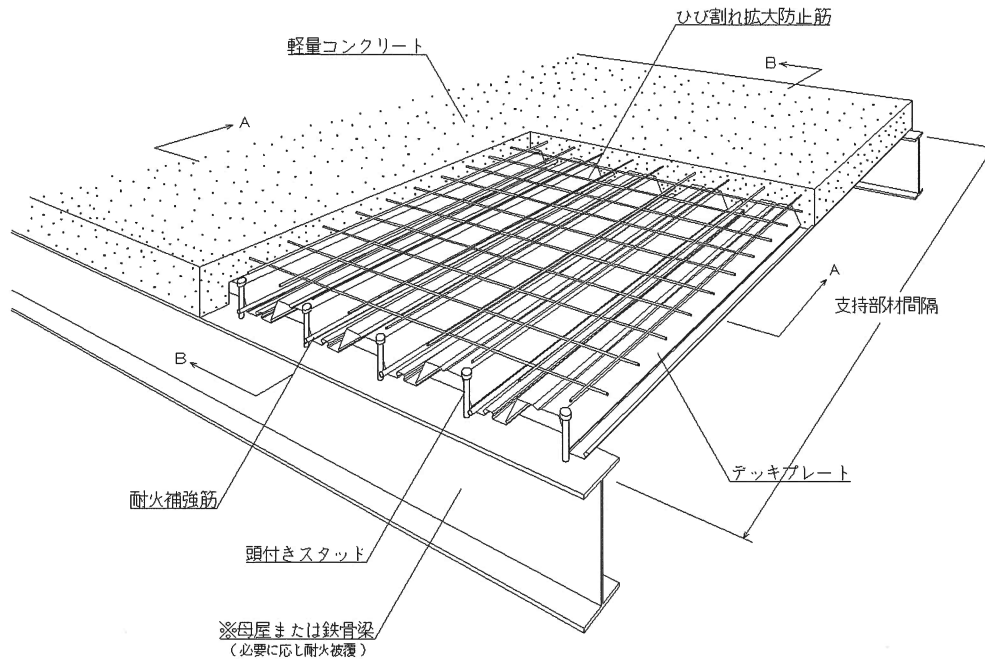
項 目	仕 様
4 ひび割れ拡大 防止筋	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)溶接金網</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・規 格 JIS G 3551</li><li>・種 類 (イ)～(ニ)のうち、いずれか一仕様とする<ul style="list-style-type: none"><li>(イ)WFP</li><li>(ロ)WFC</li><li>(ハ)WFR</li><li>(ニ)WFI</li></ul></li><li>・線 径 <math>\phi 6</math> 以上</li><li>・間 隔 <math>100 \times 100</math> 以下</li><li>・かぶり厚さ 床上面から 30</li></ul> <p>(2)鉄筋(異形鉄筋)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117</li><li>・断面寸法 D10 以上</li><li>・間 隔 <math>200 \times 200</math> 以下</li><li>・かぶり厚さ 床上面から 30</li></ul>

## 2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

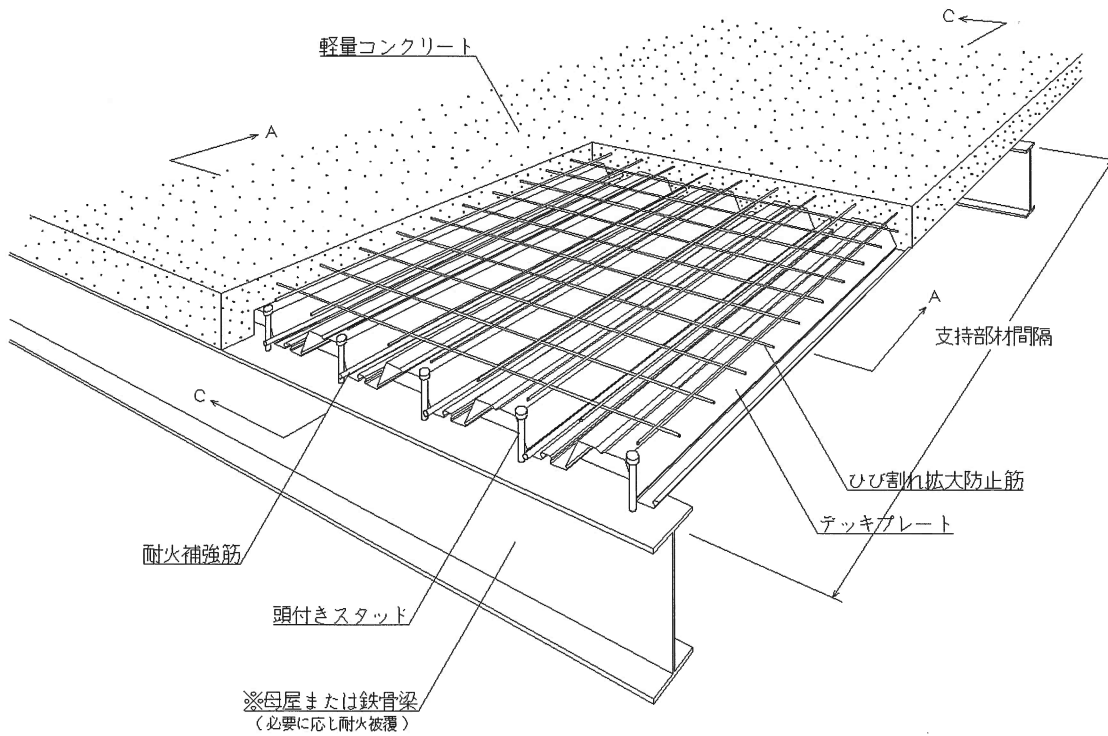
項 目	仕 様
①スペーサー	<p>[1]耐火補強筋用</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)鉄線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線 径 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul> <p>(2)セメントブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul> <p>[2]ひび割れ拡大防止筋用</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)鉄線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線 径 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul> <p>(2)セメントブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul>
②はりと床版の 接合方法	<p>頭付きスタッド</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS B 1198</li> <li>・寸 法 <math>\phi 16</math> 以上<math>\times</math>L110 以上</li> <li>・間 隔 300 以下</li> </ul>
③はりデッキプレートの接合方法	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)アークスポット溶接</p> <p>(2)すみ肉溶接</p>

#### 4. 構造説明図



※支持部材(梁)には、必要に応じ耐火被覆を施す。

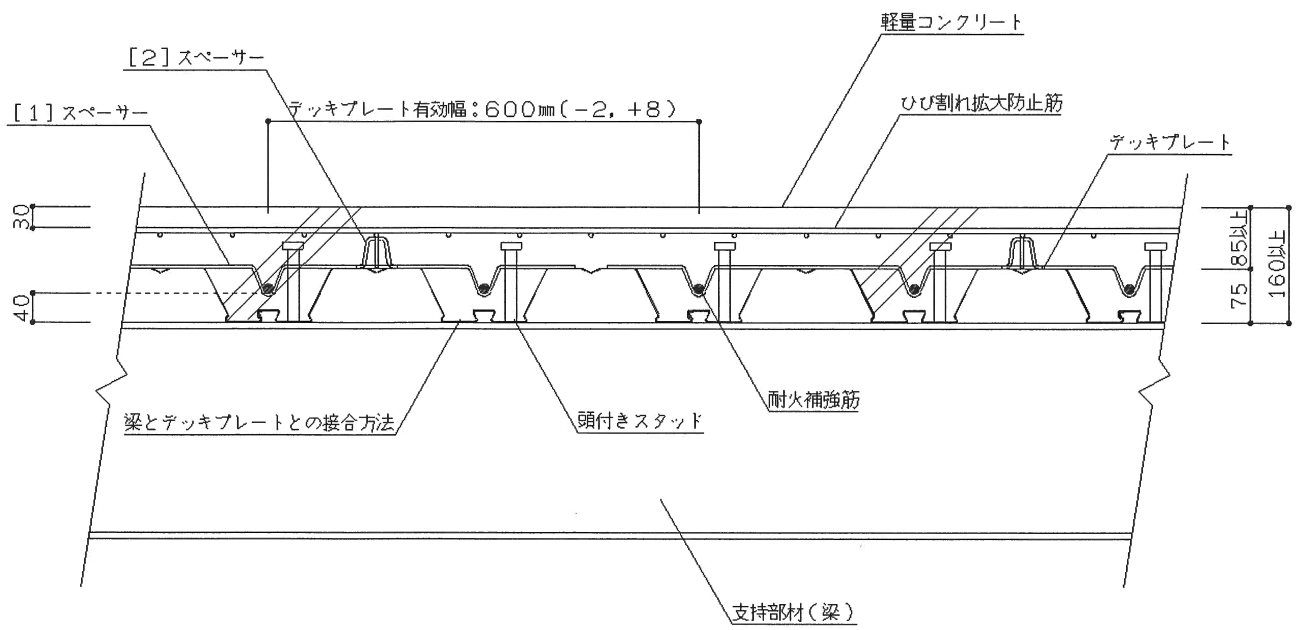
透視図：単純支持（デッキプレートが隣接スパンに跨らない場合）



※支持部材(梁)には、必要に応じ耐火被覆を施す。

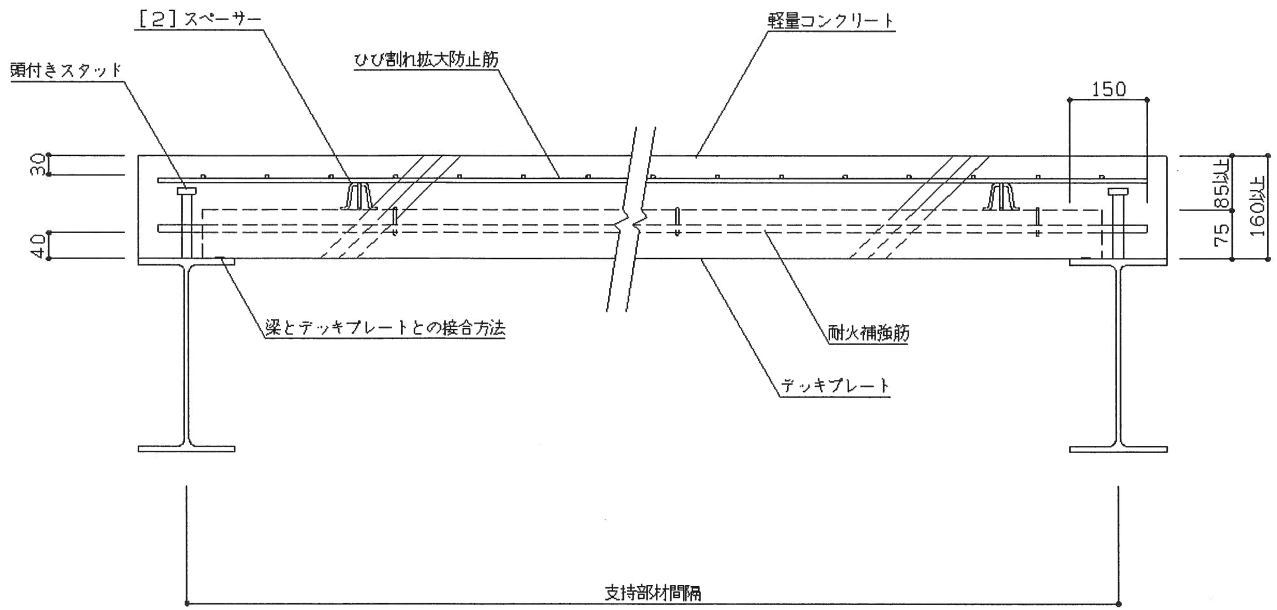
透視図：連続支持（デッキプレートが隣接スパンに跨る場合）

図1 構造説明図(1)

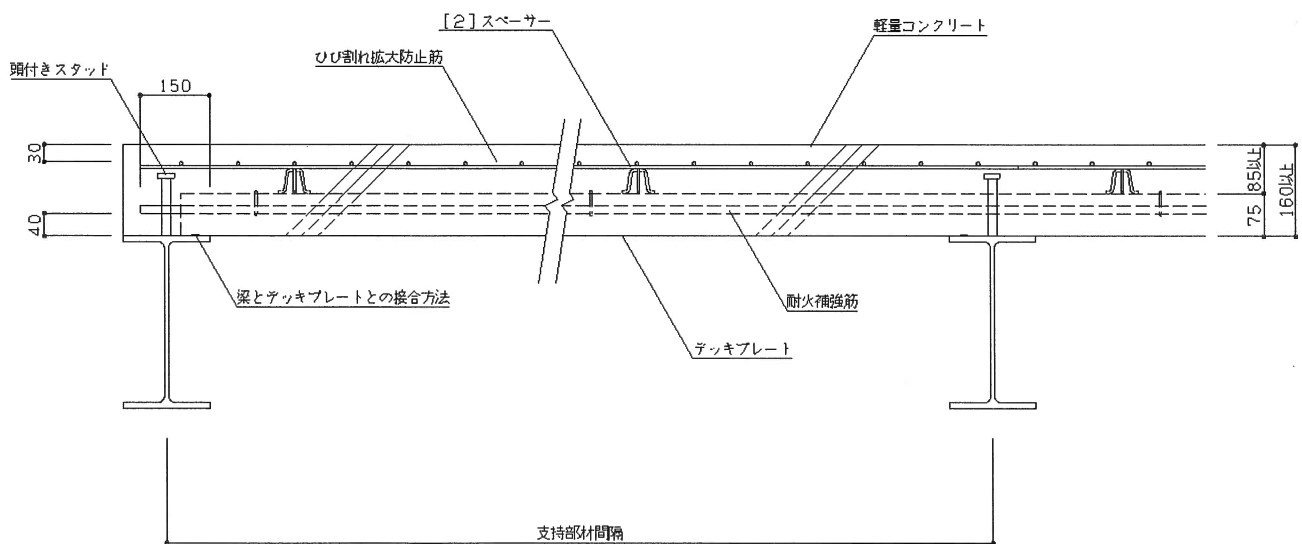


A-A 断面図

図2 構造説明図(2)

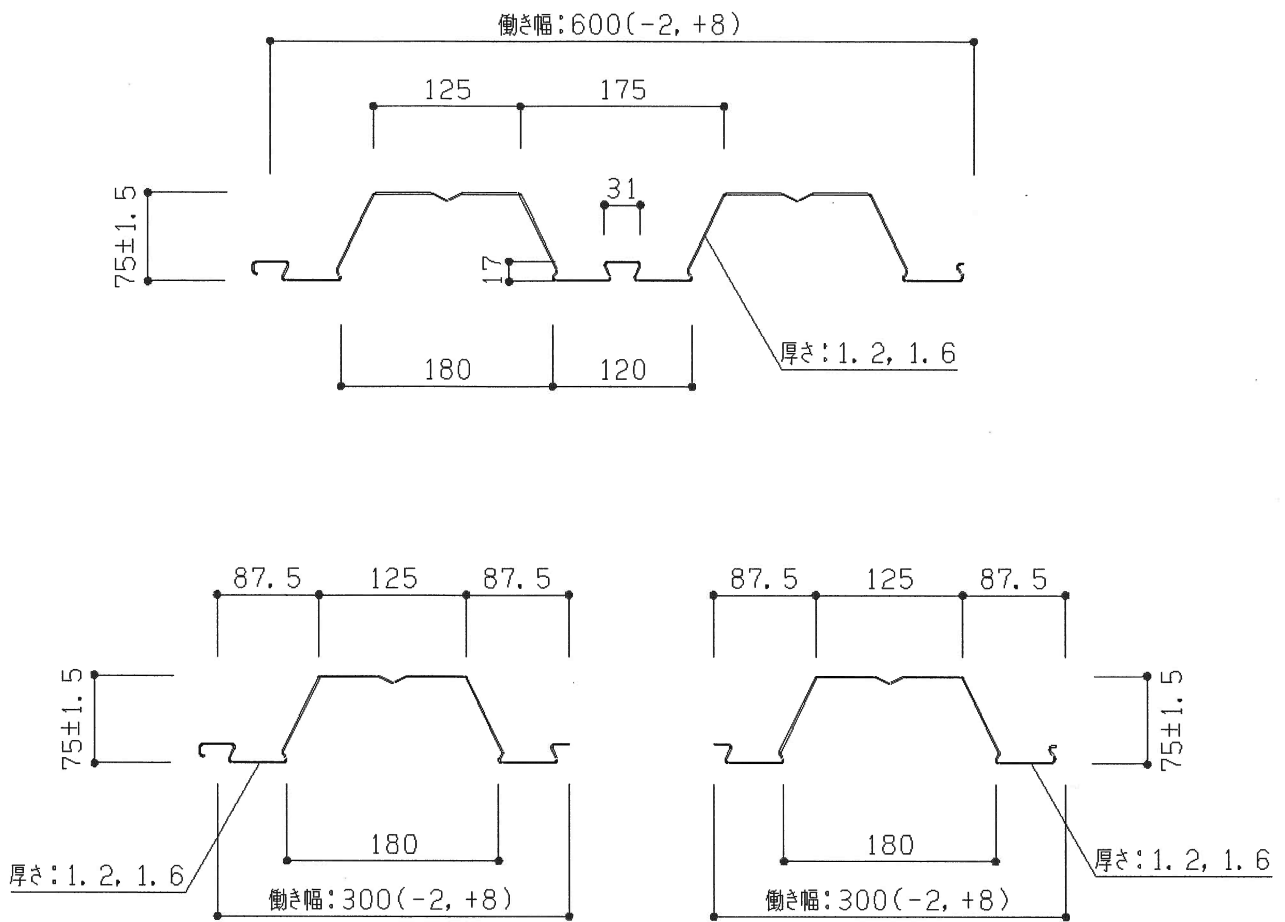


B-B 断面図 (単純支持)



C-C 断面図 (連続支持)

図3 構造説明図 (3)



デッキプレート断面図

図4 構造説明図(4)

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない



## 5. 施工方法等

### <施工図>

#### 4. 構造説明図と同じ

### <施工手順>

#### 1) デッキプレートの敷込み

デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置し、デッキプレートを梁に溶接等（各溝に一箇所）で仮止めする。

#### 2) 合成スラブと梁との接合

合成スラブ（床）と鉄骨梁とは、頭付スタッドで結合する。

頭付きスタッドの施工前に、デッキプレートと梁を隅肉溶接あるいはアークスポット溶接等で接合する。接合方法は、平成14年国土交通省告示第326号の規定及び「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会）によるものとする。

#### 3) 鉄筋（耐火補強筋）の設置

スペーサー等を用いて梁上から40mmの位置に耐火補強筋（D13以上）を各溝に設置する。スペーサーの材料は、変形等しない線径以上の鉄線またはセメントモルタルブロックを用い、間隔は1.0m以下とする。配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じるものとする。但し、構造評定や性能証明を取得した工法等による場合はそれらの仕様による。

#### 4) 鉄筋（ひび割れ拡大防止筋）の設置

コンクリートのひび割れ拡大防止の為、溶接金網または異形鉄筋を設置する。スラブ上面から30mmのかぶり厚さとなるように、スペーサー等を使用して設置する。スペーサーの材料は、変形等しない線径以上の鉄線またはセメントモルタルブロックを用い、間隔は1.0m以下とする。

配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じるものとする。但し、構造評定や性能証明を取得した工法等による場合はそれらの仕様による。

#### 5) コンクリート打設

鉄筋（ひび割れ拡大防止筋）が移動しないよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。

コンクリートの施工については、「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準拠する。

#### 6) 仕上げ

コンクリートの表面を金ゴテ等を用いて仕上げを施す。

#### 7) 養生

施工後の養生は、「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準拠する。

# アイ・テック Sデッキ：2時間耐火仕様 (高荷重耐火補強筋)

認定番号:FP120FL-0192

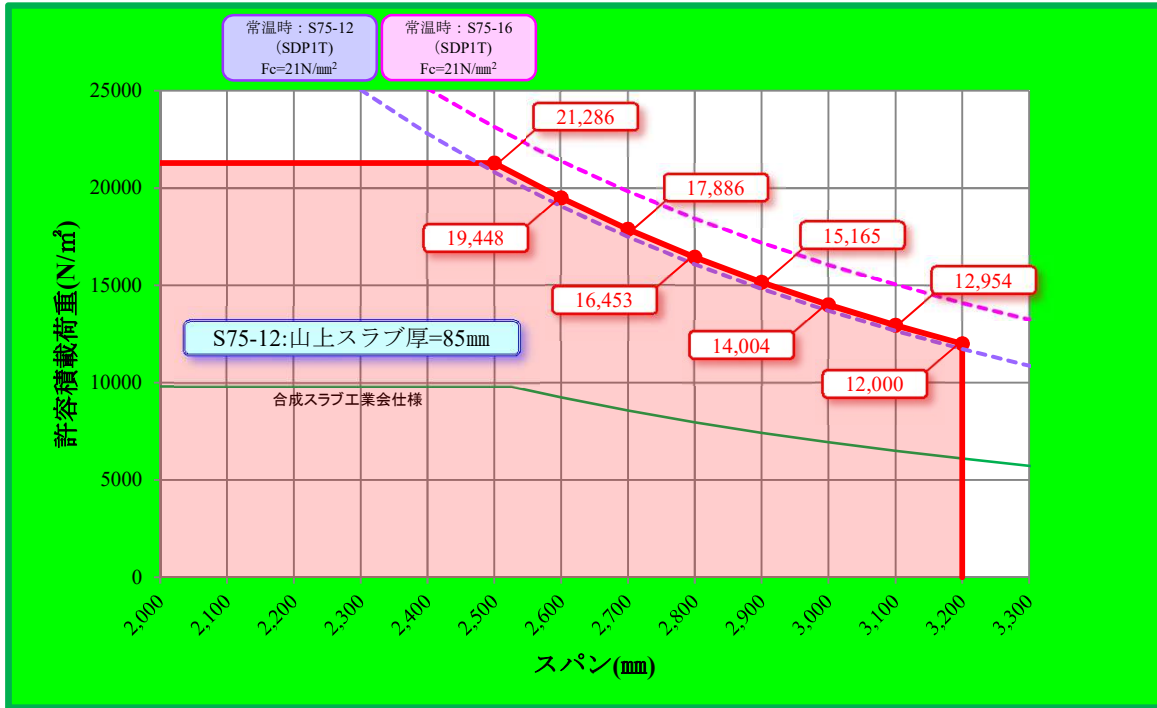
S75-12,16 SDP1T,SDP1TG,SDP2,SDP2G

軽量コンクリート(呼び強度=21~40N/mm<sup>2</sup>)

溶接金網: φ 6-100\*100

固定方法:頭付スタッド

耐火補強筋:D13(各溝)



デッキ種類		S75-12			S75-16		
山上スラブ厚 (mm)		85	90	100	85	90	100
認定自重 (DL)		2,545	2,645	2,845	2,585	2,685	2,885
スパン L (mm)	2,500	21,286	21,186	20,986	21,246	21,146	20,946
		20,815	21,905	24,135	23,125	24,525	27,425
	2,600	19,488	19,388	19,188	19,448	19,348	19,148
		19,055	20,055	22,105	21,380	22,675	25,355
	2,700	17,886	17,786	17,586	17,846	17,746	17,546
		17,485	18,405	20,290	19,825	21,025	23,515
	2,800	16,453	16,353	16,153	16,413	16,313	16,113
		16,085	16,935	18,670	18,435	19,550	21,865
	2,900	15,165	15,065	14,865	15,125	15,025	14,825
		14,825	15,610	17,215	17,185	18,225	20,380
	3,000	14,004	13,904	13,704	13,964	13,864	13,664
		13,690	14,415	15,905	16,060	17,030	19,045
	3,100	12,954	12,854	12,654	12,914	12,814	12,614
		12,660	13,335	14,715	15,040	15,950	17,835
	3,200	12,000	11,900	11,700	11,960	11,860	11,660
		11,730	12,355	13,640	14,115	14,965	16,740

※耐火仕様許容積載荷重 = 14,545 \* (3.2/L)<sup>2</sup> - DL (単位: N/m<sup>2</sup>)

※常温時許容積載荷重の算定条件: SDP1T, Fc=21N/mm<sup>2</sup>

※呼び強度=設計基準強度 (Fc) + 構造体強度補正值

株式会社 アイ・テック